

# 働く女性として憧れる近藤みゆき先生を偲んで

西 澤 眞 帆 (旧姓：石山)

今では惜しむばかりですが、私は学生時代、時間割の都合などもあり、近藤みゆき先生の授業を受講する機会がありませんでした。近藤先生には、卒業後、国文学科の助手として大変お世話になりました。授業のセッティング等お手伝いする中で、授業の面白さを感じ、学生時代に先生の授業を受講しなかったことを大変悔やみました。先生の授業を受講していた学生は皆満足し、そのほとんどの学生がゼミを希望していたことをよく覚えております。

近藤先生は、常に時代の先端を捉えていらつしやいました。授業では、百人一首を題材とした漫画・アニメも扱っており、学生にとっても好評でした。さらに、私が助手として在籍していた時に国文学科として始めたことが、大きなことで二つあります。

一つ目は、国文学科研究室のツイッターです。当時、ツイッターを活用している学生が多かったため、学科関連の連絡事項などのお知らせを流すのにツイッターを活用するのはどうかという話が助教の先生や助手の間で出ました。特にそれを後押ししてくださったのが、近藤先生でした。先生は、学科のお知らせだけでなく、国文学に関する豆知識などを流すのもよいのでは、とご提案くださり、自ら投稿してくださることもございました。当時、ツイッターをフォローしてくれる学生もたくさんおり、ガイダンスなどの日程を教えてくれるのは助かるという声や、国文学の豆知識も楽しみにしているという声もありました。福嶋健伸先生による、学食（カフェ）の裏メニュー情報なども載せることがあり、それも好評だったことも覚えております。

SNSの普及が進む中で、そういったものを率先して活用できたことが、国文学科にとっても大きな一歩だったのではないかと感じております。

二つ目は、産学連携で、富士ゼロックス株式会社との共同研究の一貫として、『百人一首』を題材としたLINEスタンプを作成されたことです。学校教育として産学連携が課題となっている昨今、国文学としてこのようなプロジェクトが行われたことが凄いことだと思います。このプロジェクトは、二年生の授業である「中古文学基礎演習2」の中で行われたことで、先生と学生が百人一首の中から好きな歌を選び、歌人やその歌のイメージでスタンプを作成していました。私たち助手は、実際に制作に携わることはございませんでしたが、イラスト選考の際に近藤先生より、意見をちょうだいということ、実際の打ち合わせに参加させていただくことが何度ありました。最終的に第二弾まで作成され、私も今でもスタンプを活用しています。制作記念に、そのスタンプのネイルシールが作られ、オープンキャンパスで来場者に配るようになりましたが、大変好評でなくなりました。

このように、常に新しいことを取り入れようとなさっていた近藤先生。ご体調が悪い時も、教壇に立ちたいという強い思いをお持ちであり、常に学生のこと、教育のことに

気を配られていた姿が目につかびます。最後にお会いできたのは、転職後、結婚のご報告をした時でした。いつも姿勢がよく、凛と立っていらっしゃる先生にお会いできるのが最後だとは、夢にも思いませんでした。今でも信じられません。

女性らしく品性をお持ちで、教育・研究という仕事に対して真摯に向き合い、新しいことにも率先して取り組んでこられた近藤先生は、私にとって憧れです。少しでも先生に近づけるよう、私も日々、精進したいと存じます。

近藤みゆき先生、今まで大変お世話になりました。そして、どうか安らかに眠りください。謹んで近藤みゆき先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(にしざわ(いしやま) まほ・平成26年度卒業生)